

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2011.1 vol.58



## 新年あけましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年1年間多くの皆様に支えられ新年を迎えることができますことを感謝申し上げます。

さて、民主党政権の元いろいろな改革がなされようとはしていますが、ねじれ国会と財源不足のためなかなか実現は難しいようです。4月の診療報酬改定はプラスで、私たち急性期病院にとって有利に働いたものの、300床クラスの病院にはあまり大きな収益増にならず、相変わらず病院の経営に頭を悩ませています。また、事業仕分けでは国立病院機構のあり方が問われ、全体としてまた個別の病院としてどのような将来計画でやっていくのか示していかなければその存在意義が問われることになりました。当センターは循環器、脳卒中、がんの3本柱で地域医療に貢献していると考えています。今後とも地域の中で役割分担を考え、3本柱の中核的医療機関になれるよう頑張っていきたいと思えます。

11月の財務省による事業仕分けで、国立病院に対する運営交付金が問題になりました。300億超の黒字だから交付金は必要ないとの意図で議論が行われたような気がします。私たちは通常の診療業務に対しては交付金はもらっていません。交付金の大半は、共済組合以前の国家公務員の恩給分に係わる費用と、国時代の期間に対する退職金の引き当てに当てられており、本来は国で直接負担すべきものではないでしょうか。また、国立病院機構は公経済負担として基礎年金の国庫負担分を肩代わりしています。財務省

は国立病院が金の卵を産む鶏だと気づいたのでしょう。独法化され、国の特別会計から企業会計へ移行し、独立採算で黒字化を目指してきたのに、黒字分を国庫に返せと言っているようなものです。私たちの身分は国家公務員並みとなっています。そのため倫理規定に縛られ、給与や賞与も人事院勧告に従っています。黒字経営なのに昨年、今年度と連続給与、賞与はカットされました。他の企業体でそのようなことがあるのでしょうか。職員の働く意欲もカットされ、離職していく人が増えるのを心配しています。

新年早々愚痴になりましたが、昨年は医師補助、看護補助の方々を新しく採用し、それぞれの補助業務についてももらうようにしました。医師、看護師の負担が少しは少なくなったかなと思います。ぜひこの制度は存続させて欲しいものです。診療面では不整脈治療や腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などが軌道に乗り、心臓外科手術症例も開設以来4000例を超えました。免疫細胞療法や小腸カプセル内視鏡の検査も可能となりました。例年の脳卒中市民講座に加え、今年1月8日に第1回的心臓・血管病市民公開講座を開催し、緩和ケア研修会も1月9～10日に実施しました。今後とも地域に必要な病院を目指して努力していきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（院長 山下 正文）



# 幹部年賀状



副院長 花田 修一

明けましておめでとうございます。  
循環器、癌、脳卒中に関し、いつも多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

さて、昨年4月の診療報酬改訂は医科で+1.74%と10年ぶりの+改訂でした。当院でも、医師事務補助者、看護補助者(急性期)を採用し、医師、看護師の業務軽減がいかにかできるか試行錯誤の年でした。さらに、急性期医療を扱う病院では増収が期待され、現実多くの急性期医療機関で収益増が見込める様です。しかし、当院のような専門医療に特化した医療機関では期待されたほどの収入増には繋がっていません。医療の質を保ちながらいかに材料費を縮減するかに頭を使った年でもありました。

国立病院機構は独立行政法人化後、診療に対する国からの交付金は殆どなくなったものの、各病院の努力により黒字経営が続いています。しかし、昨年の国の事業仕分けでかなり厳しい評価を受け、機構としてだけでなく各病院それぞれが今後どのような医療を展開していくかというテーマを突きつけられた年でもありました。本年3月にはいよいよ九州新幹線が福岡まで開通、福岡まで1時間台、大阪まで3時間台という時代が現実のものになります。鹿児島の医療界への少なからぬ影響も予想されます。今まで以上に各医療機関相互の連携が大事になるかと思えます。当院としても、救急を含めた循環器、脳卒中及び癌系の診療体制の一層の充実をはかる必要があるかと思えます。

本年も一層のご指導、ご支援よろしくお願い致します。



統括診療部長 皆越 眞一

新年明けましておめでとうございます。

鹿児島医療センターは循環器病・脳卒中とガンの3つを軸とする病院として地域医療への貢献を

続けています。医療情勢はいま大きな曲がり角にありますが、当院もこれまでの実績をふりかえりつつ、新しいビジョンの中でさらに質の高い医療を目指して進んでゆく必要があります。今年は電子カルテなどハード面の充実がすすみますし、初期・後期研修医制度の刷新・確立、他病院との連携システムの確立、市民公開講座など、全職種が連携してゆく課題もたくさんあります。

3月には九州新幹線が開通しますが、九州はもちろん西日本圏における人的・物的交流がさかになり、医療の分野にも影響してゆくことと思えます。当院の医療の質を高めることが新幹線開通の結果をよいものにしてゆくことに繋がると思えます。

2011年が病院と皆さまにとりまして、新たな出発点となる良い年でありますよう祈念いたします。本年もよろしくお願い申し上げます。



臨床研究部長 城ヶ崎 倫久

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては清々しい新年をお迎えの事と存じお慶び申し上げます。

さて、昨年は事業仕分けという国立病院機構にとっては大きな試練がありましたが、我々の病院は国民の医療になくてはならないものであるという自負を持ってこの荒波に立ち向かっていきたいと考えています。毎年、国立病院機構の病院は、臨床研究の評価を受けています。昨年は126の病院が評価を受け、当院の臨床研究の評価は26位でした。国立病院機構の病院の中で医師数、職員数が決して多くない当院が、大規模の病院と競争するには大変な努力を必要としますが、良質な情報をこれからも鹿児島から発信していきたいと考えております。職員の皆様の御協力と医療連携をいただいている各病院の皆様方の御指導、御鞭撻をこれからもよろしくお願い申し上げます。

今後当院の臨床研究が発展する様に努力したいと思います。本年も鹿児島医療センターの臨床研究部をよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 濱田 陸三

明けましておめでとうございます。皆様方には良き新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は国中が意気消沈し、日本がどこに向かうのか不安で一杯の1年間でしたが、崩壊寸前だった医療界に関しては、マスコミの論調、国民の意識など、少しは良い方向に向かうのではないかと期待できそうな兆しが見え始めた様な気が致しております。

いうまでもなく現在の医療界は医療政策・社会保障政策に加えて診療技術面からも大変換期のさなかにあり、医療連携も益々重要となってきています。私ども地域医療連携室も昨年に引き続き地域完結型の医療連携を目指して、脳卒中地域連携パスや脳梗塞超急性期の血栓溶解療法のためのt-PAネットワークを初めとして、循環器・脳卒中・がん診療の地域連携が更に充実するように努力を続けてまいりますので、どうぞ今年もよろしくお願いの程お願い申し上げます。

「鹿児島医セン」は今年もまた毎月お届けするつもりですので、診療の合間の息抜きなどに昨年同様ご愛読頂ければ幸いです。



**事務部長 四元 正明**

新年明けましておめでとうございます。

昨年の新年号で私は「秋には今年の秋には地域医療連携室とがん相談室を新たに外来ホールの中に独立させ、ご紹介いただいた患者さんの利便性を向上出来ると確信しております。」と書きましたが、未だ出来ておりません。越年してしまいました。今年は整備出

来るように計画いたします。

新たに先行して看護部長が入退院を含めた患者さんへの対応を横断的なチームでの対応も計画中です。スムーズな入退院の仕組みと地域医療連携が上手くいくような仕組みを検討しています。先生方の忌憚のないご意見や要望をお願いいたします。

今年も先生方におかれましては良き年でありますようお祈りいたします。

本年も鹿児島医療センターの地域医療連携室を大いにご活用いただきますようお願い申し上げます。



**看護部長 中重 敬子**

新年明けましておめでとうございます。

今年は、国立病院機構本部から7対1看護配置基準のお墨付きをいただきましたので、平成20年度から導入した7対1看護の成果を明らかにしなければならない年とっております。まず、年開けてから取り組むことは、看護部から発信したメディカルサポートセンターの構築です。このシステムのコンセプトは、入院患者の早期ケアとチームで関わるサポートシステムです。

緩和ケアはがん告知された患者だけでなく、大手術を告知された患者や、慢性化する病名告知された患者など全ての患者の早期緩和ケアが必要となります。

それぞれの専門領域の看護師や、薬剤師等コメディカル、MSWが、患者さんご家族の心に届くケアを、受診された時

点から充実させることを目標に取り組んで参りたいと思います。(ハード面・ソフト面が整い次第紹介致します。)

また、当院には9名の認定看護師がおり、今年さらに誕生する予定です。国立病院機構が構築している能力開発制度(AC Tyナス)を基本に教育プログラムも充実しておりますが、今年度は、院外新人看護師も対象とした「楽しく学ぶ基礎看護技術講座」も計画しております。これらの教育研修に、当院のエキスパートナースや認定看護師をフルに活用したいと企画しております。また、出前講座にも対応したいと考えておりますので看護部長室にいつでもお申し付け下さい。

最後に今年度の看護部は、数のパワーに加え看護の質を保障し、患者様ご家族の満足度も看護師のやり甲斐感も同時に向上するように頑張りたいと思います。ウサギのようにピョンピョンと元気に参りたいと思います。

今年も宜しくお願い致します。

**新任紹介**



**血液内科 レジデント よしみね はるひと 吉嶺 陽仁**

平成22年12月1日より勤務させていただきます。12月から2ヶ月間の予定で血液内科に勤務させていただきます。

2ヶ月という短い期間で、皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。

**2月看護研修のご案内**

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

がんエキスパートナース研修 **「がん性疼痛の基礎知識」「がん性疼痛のアセスメントと症状緩和」**

- 日時：H23年2月16日(水) 14時～16時 ●場所：研修棟 3階 ●対象者：医療関係者
- 講師：耳鼻咽喉科医長 松崎 勉／がん性疼痛看護認定看護師 水流 尚子

脳卒中エキスパートナース研修 **「当院SCUにおけるリハビリテーション」～リスク管理と現状報告～ 「急性期脳卒中リハビリテーションのポイント」**

- 日時：H23年2月22日(火) 14時～16時 ●場所：リハビリ棟訓練室 ●対象者：医療関係者
- 講師：理学療法士 榎木 大介／リハビリ科医長 鶴川 俊洋

集合教育 **「退院支援」**

- 日時：H23年2月25日(金) 18時半～19時半 ●場所：会議室 ●対象者：医療関係者
- 講師：地域連携室スタッフ

参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課(松尾)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

# 鹿児島医療センタークリスマスコンサート

毎年恒例となっていた当院のクリスマスコンサートは、昨年新型インフルエンザの影響で中止となり今年2年ぶりの開催となりました。

コンサートには例年、外部の楽団の皆様や、附属看護学校の学生さん達や院内保育所の園児さん達に参加頂いている所です。



また、今年は初の試みとして緩和ケアの一環として始まった西3階病棟でのがんサロンコンサートで使用しているピアノを外来ホールへ移動し、演者の皆様にも出演をお願いしたところ快くお引き受け頂くことが出来ました。出演者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、コンサート当日はまず、がんサロンコンサート“スイートピー”の皆様によるオープニング曲から、副実行委員長の郡山先生の「短い時間ではありますが、ごゆっくりくつろいでいただき療養の糧にいただければ幸いです」という開会の言葉により開始されました。

続いて院長山下先生の挨拶で、トップバッターは院内保育所の園児さん達による可愛い歌と手作り楽器の演奏です。終了後はサンタさんからのプレゼントもあり楽しんで参加してもらえたようでした。

次に“スイートピー”の皆様の独唱とピアノ演奏で、「アヴェ・マリア」や「サンタが街にやってくる」などクリスマスらしい曲目が続きます。

ここで今回、飛び入り参加として入院患者様のご家族より歌とピアノの披露がありました。患者様ご本人もコンサート会場へ来て頂くことが出来、きっと療養の励みとなられたのではないかと思います。



続けて当院附属看護学校の学生さん達によるコーラスで、2曲目のジングルベルでは患者様方の席の間に散らばり、一緒に歌っていただくようお願いしたところ、会場全体での合唱となり盛り上がる事が出来ました。

最後は当院クリスマスコンサートではおなじみのサザンウインド吹奏楽団の皆様の演奏で「ファンファンファンタスティコ、ありがとう」と続き演歌メドレーでは会場の皆様がその場で口ずさむ場面も見受けられました。

サザンウインド吹奏楽団の皆様には毎回、当院でのコンサート開催にご協力いただき大変ありがたく思います。

クリスマスメドレーが終了したとき患者様より「もう、なかとね!?!」というお声があがり、最後はアンコール曲「風になりたい」で会場全体から曲に合わせた手拍子がおこ



る楽しい雰囲気の中、副院長花田先生の閉会の挨拶によって無事終了となりました。

そしてコンサート終了後は、恒例のティーパーティーへと場所を移動し時間の許す限り患者様、ご家族の皆様楽しんでいただけたのではないかと思います。

実行委員を中心に準備を進めて来たところではありますが、1年のブランクは思った以上に何かと至らない点も多かったと思いますが、無事開催、終了することが出来、ホッとしているところです。

今後も患者様方の癒しの一助となれるよう、職員一同努めて行きたいと思っております。

(文責 庶務班長 大渡 日奈子)

## 編集後記



新年、明けましておめでとうございます。南国、鹿児島ではありますが雪が積もり真っ白に染まった景色で2011年のスタートとなりました。よりよい一年となるように頑張っていきますので今年もよろしくお願い致します。

今年は、年明け早々、心臓・血管病市民公開講座や緩和ケア研修会を開催致しました。また来月号には御報告できると思います。

(担当:井上)

### お知らせ

前号(鹿児島医セン vol.57)に誤りがありましたのでお知らせ致します。修正点は以下の通りです。誠に申し訳ございませんでした。  
◎4ページ上部 “循環器市民講座を開催します。”の医師名「鶴川 俊一」→「鶴川 俊洋」

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246  
http://www.kagomc.jp 脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】 濱田・今泉・井上・西・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井  
直通電話 ▶ 099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用 ▶ 0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

